

目指す学校像	学校・家庭・地域が信頼の絆で結ばれた、ぬくもりのある学校
--------	------------------------------

重点目標	1 タブレットを活用した授業改善と個別最適な学びの推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制といじめ防止対策の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる働き方改革の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国と比べ概ね良好な結果である。学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均と比べ、国語、算数ともに高い。 ○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションすることに意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」及び算数の「数と計算」「変化と関係」等の設問について、結果の二極化傾向が見られる。	・タブレットを活用した授業改善 ・個別最適な学びの推進	①オクリンク、ムーブノート、Teams等を活用した授業改善。 ②全教員がタブレットを活用した公開授業を一人2回以上実施、校内研修での実践発表を一人1回以上実施。 ①スタディ・サブリ等を活用した個別最適な学びと、算数タイム等を活用した計画的な学習相談の実施。 ②もくもく部屋・わいわい部屋の選択等、学び方を選択できる指導法の工夫改善。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「タブレットを活用した授業を積極的に行っている。」と回答した割合が100%となったか。 ②全教員がタブレットを活用した公開授業を一人2回以上、校内研修での実践発表を一人1回以上実施できたか。 ①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「全児童との学習相談を年に2回以上実施できた。」と回答した割合が100%となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「自分に合った学習方法を工夫できた。」に肯定的な回答の割合が80%以上となったか。						
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○心と生活のアンケート、なかよし面談、いじめアンケート等を通して、いじめを積極的に認知することができた。 〈課題〉 ○いじめを認知した後、いじめの解消に時間がかかるケースが見られる。 ○いじめ防止、いじめ撲滅に関する取り組みの一層の充実が求められる。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・子どもたちが主体となって取り組むいじめ防止対策の充実	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、教育相談に関連する項目の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校自己評価に係る教育相談に関連する項目の肯定的な回答の割合が児童アンケート90%以上、保護者アンケートにおいて、90%以上となったか。 ①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、思いやりに関する項目の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校自己評価に係る思いやりに関する項目において、肯定的な回答の割合が児童アンケート94%以上、保護者アンケート98%以上となったか。						
3	〈現状〉 ○50名を超える防犯ボランティアの方々が、毎日、児童の登下校の安全の見守りを行ってくださっている。 ○防犯ボランティアの方々が積極的にあいさつ運動に協力してくださっている。 ○学校運営協議会準備委員会で目指すテーマを「地域や保護者とともに、地域のつながりを大切に、地元を愛せる子どもを育てる」とした。 〈課題〉 ○学校の外で気持ちのよいあいさつのできる児童が約半数程度である。 ○コロナ禍で様々な集会が中止になり、地域や保護者同士の人間関係が希薄化している。 ○価値観が多様化するとともに、SNSなど、子どもを取り巻く新たな課題が山積している。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・目指す児童を育てるための教育活動の工夫と保護者・地域との連携・協働	①本校HP内に、新たに学校運営協議会及びSNSの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②本校HP内で教育活動や児童の姿を公開することにより、本校の取組や児童の成長に対する関心を高める。	①学校自己評価に係るアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「児童の成長に対する関心が高まった。」と回答する割合が80%以上となったか。 ①学校自己評価に係るアンケートで、「学校は目指す児童を育てるために具体的に取り組んだ。」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「保護者・地域は目指す児童を育てるために具体的に取り組んだ。」と回答する割合が80%以上となったか。						
4	〈現状〉 ○業務改善募集でICTを活用した校内研修の実施が評価され、さいたま市内に紹介された。 〈課題〉 ○学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、業務改善に否定的な回答が37%あり、学校関係者評価委員会でも、子どもたちのために改善することが急務であるとの意見で一致した。 ○運営委員会で勤務時間を減らすことができ、会議時間や検討時間を短縮するための工夫が喫緊の課題となっている。	・教職員が意欲的に教材研究や指導法の工夫改善に取り組み、児童一人ひとりと向き合うことができるための働き方改革の実施	①働き方改革に関する校内研修を年1回以上実施。働き方改革推進委員会を年3回実施。 ②令和5年度の高学年「さいたま市小学校教科担任制」の全面実施に向けて、高学年で一部教科担任制を実施する。 ③会議の提案について、事前に教職員がチャット機能で意見や代案を書き込むことで、会議時間を短縮する。 ④学校行事等の検討について、管理職への相談や起案を効果的に進めることにより、検討時間を短縮する。	①働き方改革に関する校内研修を年1回以上、働き方改革推進委員会を年3回実施できたか。 ②高学年で一部教科担任制を実施できたか。 ③学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「在校時間短縮に努めている」と回答する割合が86%以上となったか。 ④学校行事等の検討について、管理職への相談や起案を事前に行うことができたか。						

